

# 2020年度 学校評価シート(自己評価)

学校法人 相愛学園  
武蔵野相愛幼稚園

当園教職員の自己評価に合わせて、保護者代表の評議員にも評価をいただき、2020年度の保育の総括と園運営についてまとめました。これを受けて、次年度も保育の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 園の教育目標

武蔵野相愛幼稚園の建学の精神である「相愛」(互いに愛し合ひましよう)の実践の場として、キリスト教を基盤とする保育を行う。

礼拝や日常の保育を通して、目には見えない神さまを知り、神と人ともに愛されている存在として安心して過ごし、希望をもって生きることを大切にする。また、周囲の人々と喜びや悲しみの感情を共にする生活の中で、すべての人が神さまから愛されているかけがえのない存在であることを知り、互いに尊重する関係へと育ちあうことを願う。一人ひとりの子どもが、その子らしさを大切に、友だちや保育者と出会い、満足するまで遊ぶ体験を重ねることを通じて、共に生きることの自信を培う。

## II. 2020年度の重点目標

保育の年主題に「こころが満たされる」を掲げ、新約聖書 ローマの信徒への手紙15章13節より「喜びと平和とであなたがたを満たす」の聖句をその中心に据えて、コロナ禍にあっても、「希望の源である神様」が私たちに「喜びと平和」で満たしてくださることを信じて歩む一年としたい。感染予防のガイドラインに従い、予防に努めつつ、日々の保育を休むことなく続け、行事に関しては、工夫や見直しをしながら出来ることを前向きに行い、子どもの育ちを保障していく。

## III. 2020年度の評価項目の達成 及び 取り組み状況

### 教育課程

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<b>1,教育目標</b> 「愛する者たち、互いに愛し合ひましよう。 愛は神から出るもので、愛する者は皆、 神から生まれ、神を知っているからです。」 (ヨハネの手紙一 4章7節) の実践の場が武蔵野相愛幼稚園であり、2020年度は、「喜びと平和とで私たちが満たして下さる神さま」(ローマの信徒への手紙15章13節)を感じながら、過ごす。 ・愛されていると感じ、愛することの出来る子ども ・神さまがくださった平和を考え、祈る子ども ・神さまに与えられている一人ひとりの賜物(ギフト)を生かし、遊び、生活する子ども	A	園の目指す方向を共有すべく、教職員間で話し合ってきた。特に2020年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの保育について、年齢やキャリアに関係なく、お互いに意見を出し合ってきた。今後は、非常勤教諭との認識の共有が図れるように更に工夫する必要がある。
<b>2,保育日数・保育時間</b> 6月から保育再開 2020年度保育日数 158日 年少 9:00~10:40 年中 11:00~13:10 年長 11:15~13:30 9月~3月 年少 9:10~13:30 年中・年長 9:00~14:00 水曜日は、全園児11:30降園	A	子どもの集団での育ちの保障をするため、短時間でも毎日保育を行うことを大切に考え、保育時間を設定し、行った。この保育時間に対する園の方針を理解し、協力してくれた保護者に感謝している。

<p><b>3,保育の計画と実践</b></p> <p>コロナ禍にあって、日本や世界のCOVID-19の状況を知り、関心を示し、単に怖がるのではなく、今、私たちがなすべきことは何なのか、自分たちのやりたいことを実現するためにはどうすればよいか、我慢しなければならないことは何かを園児や保護者と共に考えていく。その中で、子どもの育ちに必要な経験を重ねていけるよう、また、より多くの喜びを体験できるようにする。</p>	A	<p>今年度はコロナ禍のため、安全・安心を最重要課題とし、様々な行事や保育を工夫して実施してきたが、コロナ禍にあって子どもの育ちに欠くことのできない経験や体験が出来るよう、保育内容や環境の工夫に努めた。</p>
<p><b>4,行事</b></p> <p>コロナ前と同様の年間計画を立てたが、日程が近くなった時点で、実施の有無や内容の変更などについて考え、保護者に知らせながら行っていく。</p>	A	<p>新型コロナウイルスの感染者数や今後の予測に関する情報を収集しながら、内容と時期を検討しながら行った。年間行事である親子遠足や年長組キャンプ、感謝祭の会食、運動会は中止した。また、クリスマス、ひなまつりは、例年とはスタイルを変えて、少人数で行うように計画を立て、実施した。</p>
<p><b>5,保育の在り方・幼児への対応</b></p> <p>物理的な距離をとる必要のある今だからこそ、子どもに対する共感的なふるまいや言葉かけを今まで以上に意識して行い、精神的な距離を近づけて、子どもが愛されていること、他者に思いを寄せることの重要性に気づけるようにしていきたい。</p>	A	<p>新型コロナウイルスの感染者が増加すると登園を控え、自宅待機する園児がみられたので、欠席中も頻繁に連絡を取り、幼稚園の様子を伝え、配布物を届けるなどして、親子の精神的ケアに努めた。</p>
<p><b>6,保護者への対応</b></p> <p>保護者と保育者は子どもを共に育てるパートナーという姿勢を大切にする。コロナ禍にあって、送迎時にゆっくり話す機会が減り、保護者とのコミュニケーションが難しいが、個々の様子を注意深く見取り、心に寄り添い、保護者が孤立しないように、園と保護者、また、保護者同士をつなぐサポートをするよう心掛ける。</p>	B	<p>口頭による園児に関する報告の機会が減ったり、園生活の変更事項を知らせたりすることが増えたことをカバーするために、連絡帳を使ってやりとりをしたり、「クラスだより」、「お知らせ」を作成、配布し、周知に努めた。</p>
<p><b>7,保育者の研修・資質向上</b></p> <p>多くがオンラインによる研修会になることが予想されるので、出来る限り参加し、資質の向上に努める。</p>	A	<p>教職員は積極的に園内外のオンライン研修会に参加することで自己研鑽に努めた。</p>

## 学校運営

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p><b>1,組織・園内分掌・会議</b></p> <p>園長のリーダーシップのもと、コロナ禍にあって、会議の中で、一人ひとりがアイデアを出し、工夫しながら、保育を進めていく。</p>	A	<p>教職員間のコミュニケーションを大切に、「できない」のではなく、「どのようにしたらできるのか」を保育者が意見を出し合い、情報交換を密にし、連携を図りながら行った。</p>
<p><b>2,出納・経理</b></p> <p>会計面での監査はすでに終え、適切であるとの評価をいただきました。</p>	A	<p>保育料無償化・一時預かり事業実施により事務量は増大しているが、保護者に不利益が生じることはないよう確認しながら取り組んだ。</p>

<p><b>3,施設・設備</b></p> <p>園庭や園舎内で危険なところがないか、定期的に点検を行い、子どもたちが安心して活動できるような環境を整える。</p>	B	<p>子ども達が密集しないように、また、危険のない環境・過ごしやすい環境を作ることを心掛けた。さらに、ソーシャルディスタンスを保つため、特に、昼食時の座席に必要な距離をとるよう、テーブルの配置を工夫した。</p>
<p><b>4,健康・安全</b></p> <p>各家庭においては、登園前の検温と健康観察、また、弁当の内容については、食べやすいものを持たせてほしいと協力を願う。幼稚園においては、登園時の手指消毒、保育時間中の換気と密を防止する保育の工夫、保育後の清掃と消毒の徹底を心がける。</p>	B	<p>健康診断の実施と新型コロナウイルス感染症対策の消毒を徹底して行い、園児の活動に伴う安全への配慮や注意喚起を最優先した。また、万一の自然災害、さまざまな危険を想定しての職員配置を考え、研修と訓練を実施すると共に、園児とも火事や地震などさまざまな災害の状況を想定し、毎学期、訓練を行った。</p>
<p><b>5,情報</b></p> <p>幼稚園からは、子どもの育ちの様子を知らせるために降園時の口頭による伝え、幼稚園だよりやクラスだよりの発行、ホームページによる発信を心がける。文科省、東京都、武蔵野市、また、私立幼稚園連合会からの情報をいち早く、的確に受け止め、対応できるようにする。</p>	A	<p>2020年度より緊急時の連絡について、電話連絡網を使っての連絡を廃止し、一斉メール配信に切り替えた。また、コロナ禍にあたり、東京都私立幼稚園PTA連合会の父母講演会がオンライン配信されることになり、希望する保護者は、それを視聴する機会を得た。参集しての開催の場合は、当園から1～2名の参加割り当て人数であるが、オンラインであったので、関心のある方は、人数制限なく視聴することが出来、「アタッチメントの重要性」(講師:東京大学 遠藤利彦氏)についてよき学びのときを得た。</p>
<p><b>6,開かれた幼稚園</b></p> <p>保護者によるウイルスの園内持ち込みを防ぐ対策から、例年のような保育の参加スタイルは難しいが、それに代わる、子ども理解の助けとなるような情報の発信をしていく。</p>	B	<p>ホームページやクラスだよりなどを通じて保育の様子、子どもたちの育ちに関して、出来る限りの公開を心がけた。入園希望者に対しては、10月中に2回、参観日を設けて、対応した。</p>
<p><b>7,保護者会・母の会・父の会</b></p> <p>全園児保護者の参集する保護者会は、密を避けるために行わず、年間を通して、学年ごとの保護者会に切り替えて実施する。母の会、父の会の活動については、2020年度は原則的に休止とする。</p>	A	<p>新型コロナウイルスの感染対策をとりながら、子どもの育ちを伝え、共有する場として、クラス保護者会は参集しての会を実施した。また、母の会の係の活動も有志によるZoom会議を経て、「図書だより」や「広報誌」が発行された。さらに、前年度の会計係が用意してくださり、年長組の園児たちに母の会より卒園記念の鉛筆が贈られた。</p>
<p><b>8,園児募集</b></p> <p>入園説明会は、子どもを通わせたい幼稚園の理念、環境(スタッフや園舎、遊具など)を肌で感じていただきたく、参集しての会を行う。その他、10月15日からの「入園願書配布」や11月1日の「願書受付」については、東京都私立幼稚園連合会の協定日時に従い、行う。</p>	A	<p>面談の順番を待つ時間の密集を防ぐ工夫として、願書提出日の午前9時から願書提出希望者の電話による申し込みを受け付け、来園時間を指定して行った。</p>
<p><b>9,教育実習</b></p> <p>保育現場に出る学生の幼児との生活経験を大切に思い、健康診断証明書を提出してもらい、実習中の健康管理に配慮しながら実習生を受け入れる。</p>	A	<p>教育実習生については、積極的に受け入れ、後進の指導にあたった。</p>

## 社会貢献

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<b>1,地域との連携</b>  外部とのコミュニケーションを持ちにくい状況であるが、可能なことに関しては、連携を図りたい。	B	幼小連携の面では、就学前に訪問や電話連絡という形を取りながら、地域小学校への引き継ぎを行った。近隣の卒園生所有の竹林に七夕の笹を切り出しに行く経験やついた餅をご近所におすそ分けをする経験などの地域との交流は、七夕や餅つきの行事の中止により行うことが出来なかった。
<b>2,保育の公開</b>  実際に来園者を迎えての保育の公開は難しい状況であるが、Webによる保育の公開については、個人情報に配慮しつつ、行う。	A	コロナウイルスの侵入防止の観点から、外部の人々の来園や見学は行わなかった。その代わりに、ホームページを用いて、Webによる保育の公開を心がけた。
<b>3,各種研究会への協力・支援</b>  要請があれば、応えていきたい。	A	キリスト教保育連盟主催の「キリスト教保育の学び」研修動画の配信にあたり、オープニング画面や讃美歌伴奏の協力を全保育者が係わり、行った。

### 結果について

- A 十分に達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んだが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

### 2021年度 今後へ向けて

教職員の業務量は増加しており、仕事の内容・やり方の見直しが必要だと考えている。各行事や事務などは年度初めに係分担やチーム体制を作って進めている。負担が集中している時や責任が明確でない場合もあり、今後も改善をはかっていきたい。